

予報

令和5年度東海高等学校総合体育大会登山大会

1 大会山域について

今回の山域は大きく2つに分かれる。

箱根山(はこねやま)は、カルデラ火山である。カルデラと中央火口丘、二重の外輪山で構成され、カルデラはおおよそ東西8km、南北12km、外輪山は玄武岩～安山岩の成層火山群からなる。内側には芦ノ湖を形成している。最高峰は神山1437.7m、古期外輪山の最高峰は金時山1212.4mである。金時山は古くは、山容から猪鼻嶽と呼ばれた。いつしか坂田金時の故郷が足柄山であるとした「金太郎伝説」ができ、金時山と呼ばれるようになった。

三国山稜(みくにさんりょう)は、神奈川県・山梨県・静岡県の3県境にある三国山から富士山東麓の籠坂峠へ伸びる延長約7kmの尾根である。富士山と丹沢山地をつなぐ起伏の少ない尾根で、広義の丹沢山地に含まれる。富士山の近くに位置する尾根であるため、過去の富士山噴火によって堆積した火山性の土壌(スコリア)が広がっている。

主な地名と標高など

足柄駅(あしがらえき)330m, 銚子ヶ淵(ちょうしがふち), 虎御前古道(とらごぜんこうどう), 赤坂古道(あかさかこうどう), 足柄峠(あしがらとうげ)759m, 猪鼻砦跡(いのはなとりであと)962m, 金時山(きんときさん・きんときやま)1212.4m, 長尾山(ながおやま)1144m, 乙女峠(おとめとうげ)1005m, 丸岳(まるだけ)1156m, 富士見台(ふじみだい)1025m, 長尾峠駐車場(ながおとうげちゅうしゃじょう)950m,

須走浅間神社(すばしりせんげんじんじや)800m, 紅富台入口(こうふだいいりぐち)860m, 籠坂峠, 籠坂峠(かごさかとうげ), 立山(たちやま)1330m, 畑尾山(はたおやま)1365m, 大洞山(おおぼらやま)1383.4m, 檜木山(ならきやま)1353m, 三国山(みくにやま)1328m, 三国峠(みくにとうげ)1168m, 鉄砲木ノ頭(てっぽうぎのあたま)1290.8m

2 コース案内

大会2日目

足柄峠～金時山～長尾峠コース

足柄駅前 S1から、踏切を渡るとすぐに交差点が現れる。青い道路案内に「足柄山古道」と表示された道に進む。

住宅地の中の細い舗装された道をたどる。初めに現れる橋を渡ると、やがて道は東南東方向に曲がる。すぐに家屋がなくなって川沿いに進んでいく。嶽ノ下宮奥宮の手前に駐車スペースがあり、一般車両の乗り入れはこま

でとなる。この先、橋を渡り、右岸に沿って林道戦返り線を歩いていく。左手に不動の滝(頼光対面の滝)の標柱が見えてくる。この辺りはスギ、ヒノキの人工林がうっそうとしている。このハイキングルートは足柄古道コースと地元では呼ばれている。やがて少し開けた銚子ヶ淵につく。やや大きめの釜を持った水量の多めの低い滝がある。500mくらい進むと椿ヶ淵が現れるが、こちらはあまり大きくない。相変わらず左斜面はスギ、ヒノキの人工林である。少し大きめの枝沢が左から合流した後、虎御前石分岐の標識がある。ここが虎御前入口である。左に行くと虎御前古道



であるが、ここはまっすぐ足柄峠をめざす。まもなく橋桁が赤い伊勢宇橋の近くで車道(県道78号)に合流する。車道脇のスギはかなり太い。送電線の下を通過して250mくらい進むと赤坂古道入口に着く。左手に標識があり、尾根に行く登山道に入る。はじめ石畳が始まるのかと思うがすぐに笹が多い山道を登る。周囲にクリやコナラなどの広葉樹と笹が茂る中を登っていく。やがて伐採地をすぎると車道(県道365号)を横切る。少し登って再び車道に出たら左側に渡って歩こう。下の六地蔵と上の六地蔵を過ぎるとガードレールが登場する。ガードレールの継ぎ目に遊歩道入口の道標が隠れるように設置されている。ここから足柄峠城址公園に入る。五の曲輪から堀道などを経て二の曲輪を越えると本城跡にあずまやが見える。ここに足柄峠 CP1がある。



10分の指定休憩をしたら、石垣を階段で下る。道を横断して南進し、金時山に続く車道を歩く。スギ、ヒノキの人工林の間を通る道ではあるが、頭上は明るく、道の両脇には広葉樹などが生えている。白い釣り鐘のような花を、下向きに沢山付けているエゴノキのほかに、マルバウツギやツクバネウツギ、ムシカリなどの白い花が目につく。ニシキウツギは赤みをおびている。道路の舗装が終わり砂利道になってからしばらくすると地蔵堂からのルートが合流し、金時山登山口に着く。



10台以上とめられる駐車場があり、その先にゲートがあって一般車は通行できない。ゲートを過ぎると路面にえぐれたような箇所が出てくる。道路の両脇に、ミズナラなどが目立ってくる。よく探せばコバノガマズミやヤマボウシなども咲いている。道の傾斜が緩んでしばらくすると、ベンチが設置された休憩ポイントである猪鼻岩跡につく。ここは丸鉢山と呼ばれ、夕日の滝分岐である。矢倉沢(地蔵堂)からの登山道を合わせ、展望が開けてくる。正面に金時山、遠くには富士山の眺望が素晴らしい。一旦少し下ると傾斜は徐々にきつくなっていく。樹相は、アカシデーイヌシデ群落に変わっていく。新柴分岐に近づくころから本格的な急登となり、鳥居をくぐると登山道の傾斜は一気に増す。災害でしばらく通行止めだった登山道を擬木階段で再整備してある。一段の段差が高いので大変きつい。ブナやミズナラの林の間に、部分的に岩場もあり、鉄階段が連続する急坂が続く。右手方向に目をやると、山頂の金太郎茶屋や金時茶屋の荷物運搬用ケーブルが山頂に伸びているのが見える。息が上がってつらく感じるころ、ようやく建物が見えてくる。山頂下のバイオトイレである。金時茶屋の横を通り、金時山 CP2の山頂に達する。CP2で通過チェックを受けよう。



金時山は箱根外輪山の最高峰で人気の山だ。晴れていれば、西に富士山、南に箱根火山中央火口丘、大涌谷の噴気などがよく見える。岩場から少し離れた登山道近くにシモツケやコアジサイなどが見られる。金時山頂から長尾山までは、岩場が多く、足元が切り立っている所もあるので慎重に歩いてほしい。特に山頂から下った1150m付近は、第一の難所といえる。一端下りきって再び1150mを越えると平坦になり、笹が目立つ。南側に展望が開けた場所があり、箱根最高峰の神山や大涌谷の噴気、芦ノ湖などが見える。金時山から乙女峠の稜線は多くのハイカーやトレイルランナーが利用する人気ルートである。道すがらヤマツツジのオレンジ色の花やウツギ、ヤマボウシ、シロヤシオの白い花が目を楽ませる。平坦地を過ぎると再び岩が目立つ下りになる。特に1100m付近で尾根から一端南側に下ってコルに至る箇所は岩稜がやや陰しく滑落到に注意したい。コルを過ぎても一部鎖が側壁に設置されており気が抜けない。1150mのなだらかなピークを過ぎると長尾山 CP3に着く。ピーク状ではないので山らしい山頂ではないが、休憩には適している。

ここでも10分の指定休憩をとる。周辺ではマユミの小さい白い花が地味に咲いている。長尾山から乙女峠までは登り返しや岩場がない下り道である。粘土質の登山道に土留めの木が階段状に設置されている箇所が目

であるが、ここはまっすぐ足柄峠をめざす。まもなく橋桁が赤い伊勢宇橋の近くで車道(県道78号)に合流する。車道脇のスギはかなり太い。送電線の下を通過して250mくらい進むと赤坂古道入口に着く。左手に標識があり、尾根に行く登山道に入る。はじめ石畳が始まるのかと思うがすぐに笹が多い山道を登る。周囲にクリやコナラなどの広葉樹と笹が茂る中を登っていく。やがて伐採地をすぎると車道(県道365号)を横切る。少し登って再び車道に出たら左側に渡って歩こう。下の六地蔵と上の六地蔵を過ぎるとガードレールが登場する。ガードレールの継ぎ目に遊歩道入口の道標が隠れるように設置されている。ここから足柄峠城址公園に入る。五の曲輪から堀道などを経て二の曲輪を越えると本城跡にあずまやが見える。ここに足柄峠 CP1がある。

立つ。富士箱根に多いマメザクラは5月上旬までなら白い花をちらほらつけて目を楽しませるのだが、今はミズナラやクリなどの広葉樹の林が茂り、展望はあまりない。乙女峠は近くに休憩用テーブルベンチが設けられ、南側の景色がよい。峠は十字路となり、北西側に御殿場方面、南東側に仙石原方面に通じる登山道が通る。御殿場側に展望檣があり、晴れている日は雄大な富士山を眺めることができる。峠には、長く放置されている乙女茶屋がひっそりと建っている。乙女峠から登山道は再び上り基調となるが、傾斜は緩いのでトレイルランニングに適している区間である。徐々にハコネダケが林床が増えて視界を遮るので展望があまりきかない。ミズナラ、イヌシデ、オオモミジ、ウリハダカエデなどの広葉樹の他に、幹の模様に特徴のあるナツツバキ、ヒメシャラ、リョウブや、アブラチャン、アセビ、イヌツゲなどの照葉樹が目につく。いくつかの小ピークを上り下りするとNTTの無線中継塔が目印になる丸岳に到着する。山頂手前にサンショウバラの淡いピンクの花が咲き、山頂標識の近くには休憩用テーブルベンチがある。東から南にかけて箱根カルデラを広く見渡せ、芦ノ湖も大きく見えるようになる。丸岳付近から樹高の低い木が優占種となり、フジアカショウマ、シモツケソウ群落の草地も現れる。明るい尾根を下っていくと、次第にハコネダケの背丈が高くなって両脇の視界を遮る。登山道が樋状にえぐれた所や両脇に鉄製の手すりだけ残ったコンクリート階段の残骸を下ったりして、しばらく進むと視界が開けた平坦になった富士見台に着く。ここでは登山道と電波塔の管理車道が接しており、展望台が設置してある。ここから再び茂みに視界が遮られるが、下り斜面になると東側の視界が開けて芦ノ湖が見える。傾斜が緩むとまた茂みの中を進む。マムシグサやトリカブトなどが見られる。ますますハコネダケの背丈が高くなる頃、長尾峠を通過する。長尾峠周辺は全く展望がきかない。明瞭な鞍部とはなっておらず、どこが峠か判然としない。一応標識があり仙石原方面に下る分岐もあるのだが、ここが峠？と思える場所である。ここから右手にスギの植林をハコネダケ越しに見ながら進み、少し登り返すと駐車場に下る分岐が現れる。右手西側の林の中を下る道を通るとまもなく広大な長尾峠駐車場 G1に到着する。ここも富士山の眺めがよい景勝地である。すぐ近くに箱根スカイラインがあり、料金所横にきれいなトイレがあるので利用させてもらおう。



大会3日目

須走浅間神社～立山～三国山～鉄砲木ノ頭コース

須走浅間神社 S2(正式名称 東口本宮富士浅間神社)でバスを下車した後、紅富台入口 S3まで国道138号に沿って歩道部分を歩いて行く。

紅富台入口 S3で改めて集合しなす。2日目のゴール順で、2チーム毎1分おきにスタートする。住宅地の上り坂をほぼ直進すると、400m足らずで紅富台に着く。指導標と案内板が設置されている。ここが登山口である。登山道に入ると、足下は黒い砂地である。宝永噴火のスコリアで、地元では富士砂(ズナ)と呼ばれる。ニシキウツギの紅白の花やノリウツギ、ムシカリの白い花が咲く。植林されたスギ・ヒノキが密でやや暗くなり、くぼみの左側の登山道を沢に沿って350mほど登る。右岸の道から左手の山腹をトラバース気味に進みながら少し登ると道はT字路になる。右は林業用の作業道なので左に進む。スギ・ヒノキの人工林の中をジグザグに登る。山腹を右側に見ながら進むとそのままとらバースして進む作業道と右側の山腹を直登気味に上がる登山道が分岐する。わかりにくい分岐であるが、白ロープに導かれながら登るとよい。ジグザグの道が標高1050mくらいで尾根筋に合流すると、立山休憩所の指導標がある。この辺りで人工林から天然林に変わっていく。ミズナラやクリなどの広葉樹の中を高度100mくらい直上すると道は左に折れて傾斜がやや緩む。新緑の木々を鮮やかなピンクで彩るサンショウバラは、神奈川県、山梨



県、静岡県にまたがる富士箱根だけに咲く固有種である。開花時期が立山周辺では6月上旬～6月下旬なので、この花を目当てに訪れる人も多い。山腹を斜上に登り標高1200mを越えて向きを変えるとすぐに立山砂場の指導標がある。かつて宝永噴火のスコリアが砂場のように広がっていたのであろうが、今は草木が茂り、砂場とは言い過ぎに思える。頂上に近づくにつれてブナが目立ち、ヤマボウシの白い花やサラサドウダンも多くなる。標高1300mを越えると傾斜がなくなり、しばらく行くと須走立山分岐の指導標がある。ここを直進するとまもなく立山山頂の指導標がある。



ブナやミズナラなどの枝葉で展望がきかず、明瞭なピークでもないので、うっかり見過ごしてしまいそうだ。リョウブやフジベニウツギなどもみられる。ここ三国山稜の立山から明神峠にかけては太平洋型のブナの大木が特徴的である。山頂を過ぎてゆるく下っていきとすぐに立山東分岐の指導標があり、籠坂峠への分岐を示す。これ以降も籠坂峠への道が現れるが、エスケープルートとしてはアザミ平から籠坂峠へ向かうのが一番歩き易い。再び上りに転じ、まもなく畑尾山のピークを踏む。ここから北東方向に下るとアザミ平の指導標がある。ここが籠坂峠と三国山への分岐となる。すぐに稜線上に低木しかなく荒地のような部分が現れる。この辺り一帯がアザミ平で、かつてはフジアザミなどが多かったのかもしれないが、現在ではほとんど見る事ができない。今まで展望が得られなかったが、南側の視界が開ける。両脇にロープを張って植生を保護している。風が強いのか片側の枝だけが発達している風衝樹形も見られる。この稜線はアップダウンが少なく、岩場も皆無であり、危険が少ないのでハイキングやトレイルランニングに向いている。再び上りに転じて広葉樹の林に覆われ、ゆるやかなピークを越えた次のピークが大洞山 CP4である。

大洞山は静岡県側からは角取山と呼ばれる。相変わらず立派なブナ林の中を進む。ヒメシャラやマユミなどの樹木や途中バイケイソウの群落も見られる。次のピークの檜木山を過ぎると、南側が低木になりやや視界が開ける。そして尾根は広がりどこを進んでも良いのではと思える広さになる。そこからしばらくするとツナ峠の指導標があり、北へ行くと山中湖村側、南へ行くと小山町側の分岐点である。ツナ峠はズナ峠、ズナ坂峠とも呼ばれる。ここからピークをひとつ越えるとまもなく三国山に着く。山頂はそれほど広くない。甲州・相州・駿州の三国の境となっている。ここから北側に向かって下る。今までの道に比べれば急な下りである。路面は泥や土で滑りやすいところもあるので気を抜かず歩きたい。北東方向に谷筋があるが、北側に向かった尾根に道があり、ややえぐれた窪地の付近に踏み跡が多数ある。どの道を選んで良いか迷う。高度を200mくらい下げ県道730号が見えてくると、まもなく三国峠 G2に到着する。

ここでチーム行動は終了となり、監督と合流して鉄砲木ノ頭をめざす。県道を横断するとき車に気をつけて欲しい。ここから高度にして150mほどの上りであるが、かなり息が上がる。樹木の背は低くなり、西側はススキなどの草むらが広がっている。山頂は山中諏訪神社奥宮があり、晴れていれば富士山と山中湖の眺望が雄大である。鉄砲木ノ頭は明神山とも呼ばれる。ここで休憩したら登路を引き返そう。県道を横断して三国峠 G3で到着チェックを受ける。

なお、文中の下線部は主要地点を表す。